

●けいはんなオープンイノベーションセンター

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い公共サービスのイノベーション創出拠点としての更なる利用促進により、有効性を更に向上させること。 ・国際的なオープンイノベーション拠点として相応しい機能等を検討すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発企業の集積が進み、加えて実証拠点としての新たな機能強化を図ることで施設の有効性の向上に寄与。 ・ロボットやドローン開発のための5G基地局や屋外自動走行場、3Dプリンターやレーザー加工機の共同利用の場等、実証環境の整備によりオープンイノベーション機能を向上（R3.4～）。 ・「けいはんなロボット技術センター」では、次世代ロボット等の開発・実証のため、中小企業・ベンチャー・研究機関等が共同利用できる従来の機能に加え、学生ロボットチーム、社会人オープンソース研究会など、業界コミュニティとの連携を活かして認知度向上を図り、ロボット競技の全国大会等を誘致（H30.11～）。 ・「SEIKAクリエイターズインキュベーション」では、周辺の精華町、木津川市に住む小中学生向けの科学体験教室やロボット教室等、多様な教室やイベントを定期的に開催し、日本のものづくりを担う次世代のエンジニア育成にも寄与（R2.4～）。 ・国際博覧会「スマートシティエキスポ」、ロボット競技の国際大会である「RoboMaster」（H30.11）や「ロボカップジュニアジャパン」（R4.4）等の大会を誘致。 ・2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた開発・実証を行う企業を誘致し、グローバルオープンイノベーションを推進。
<p>取組の結果</p>	<p>◇施設の活用状況は年々増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究スペース入居率：H29：76.5%→R元：84.1%→R3：90.4%（延べ32プロジェクト） ・遠隔・非接触・非対面サービスの需要増にともない、けいはんなロボット技術センターの利用率が増加（R3：前年比59%増）
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設利用率の更なる向上に向け施設の賃貸可能面積を拡張させるには、大規模改修や電源増強など大幅なハード整備予算の確保が必要。 ◆大空間など未利用スペースを活用した大型プロジェクトの誘致活動の推進。

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□新産業の創出・育成という京都府、そして日本にとっての大きな課題・目標と照らし合わせると、同種・類似の施設が存在しない本施設の存在意義は大きい。</p> <p>□長期的に施設を維持するため、中長期的な戦略立案と実践を図るとともに、本施設の独自性や意義を国内外へ積極的にアピールし、学会、会議及び競技大会等を誘致等するなど、府民の理解を深められる事業を実施することに期待したい。</p> <p>□設置目的に沿った事業面の課題と施設インフラ面の課題は、それぞれ分けて捉えた解決を図り、継続したイノベーションの創出に必要な支援を図られたい。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><改善方策></p> <p>◎事業者支援の機能を活用した中長期的な戦略により、有効性を更に向上させること。</p> <p>◎設置目的に照らした施設の有効性について、府民の理解を深める情報発信や府民参加型の取組を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○大型プロジェクトの誘致を本格化する等、関西文化学術研究都市の研究開発・社会実証フィールドとしてのポテンシャルを生かした産学公連携によるオープンイノベーションの取組を促進する。</p> <p>○オープンイノベーション拠点として相応しい事業成果を発信するとともに、次世代の人材育成に繋がる取組の強化を図る。</p>